


0-144  
~~0-144~~  
2

俳諧資料力 

年代	明治
編者 (筆者)	三崎
書名	四季句
備考	好 新井 文化21

(下垣内蔵)

17500

禿

可

展



春

菜の花や糸より船は若くは

歎玉

松風と佐りしぬ婦り乃柳と籠

眉月

朝き柳と川に釣瓶竿

茶拂



已、音、見、返、る、雄、乃、厨、々、龍

鷺橋

梅、の、花、追、従、之、の、こ、め、々、々、龍

稻井

梅、咲、の、青、ま、小、戻、依、漢、筒

文彩

禮、帖、々、々、々、々、中、多、流、柳、小

琶子

之、如、昔、の、し、寸、流、意、店、の、梅、花

潮風

素、人、小、那、遊、女、の、花

如梅



駒、下、點、の、遠、小、花、坊、の、椿、小

如弦

蝶、々、々、々、に、置、形、々、々、茶、橋、小

兼雀

春の雨の次へふるまき古き垣けり

野草

たきき何雑啼谷の罫の家

關車

ふくふくの音也照消さ着菜摘

湖亭

不四乃と一かんハ甘きかん如神まぬい

嵐十

菽入也き形の穂一梅のむ

艸雨

吾いや松がり青手海りる

梅旭

釜けり友待む冬へのり難

梅牛

あけ日のく梅と冬家ハ形く色

馬時雨

うさ寸此春ふせぬ本形く色

竹村

負——く女入寸か江柳く龍

笑水

江を鶴とふは(く)申田此陸水

翠山

帆石や時吹く春此凡

花久仙

雙ゆらぐむ形——くけりぬ春此看

風絮

啼く月や春(か)も川に龍

世湖

岸を隈るく山や春此由

九江

雪を白くくくくくくくく

群平

かりゆ子此多し梅乃香浴

春路

あまゝ妹、子這は垣根う弱

果三井

世帯や桃の伐人の人飛店

栖井

夏

風薫ふ茶師乃川や夕訪

眉月

朝風乃風葉乃古く鏡の乾

茶搦

月風此帆立鳥帽子や市後川

踏橋

六月の世帯調し木柵一葉

稻井

岸より人より舟の影うつりて

文彩

糸きりかきかき月なり時を

如梅

鏡をよるる月と鮮なる言ふ

如弦

河川より切川入る治る雲を

湖風

山岫や月洗ひ出寸舎久倉

兼菴

峰ありや菴より谷の計の跡

野平

舟婦一人改帳と如きなり

關車

舟より嘆く所後此川

湖亭

汲しんむ湖水と移るるのし

壺一戸

洋也急を帆より移るるはく

嵐十

冥啓より一は姉より竹婦人

竹雨

涼一左也雙結床の利刀はき

梅旭

春金原楊子の音ゆりしり繁

軟玉

夕々るおちりり八景茶

馬時雨

卯の急々ゆりしり此る者か

竹村

ふまきり火と猿のたりし男遊戯

美水

胡乃月南のりくけ也燭斗

翠山

近江路や扇の音すゞ壇の声

花久仙

半端乃筵人か川柳喜々山

風絮

夕麩の窓か〜眠〜空も水が

世湖

涼〜さわ入夕返〜下りる

九江

深れどち〜〜定ぬ水乃泡

群平

小糸女我里巻るいちこが

春路

堂ひく川廊の音とりにぬ

曇善

人北川下形河の伸よとて外

梅牛

公る乃くち島——梨漬 底

栖井

秋

料の戸又作らぬ菊乃白ハハ

湖亭

宗旦代か——王世流好く趣か

茶櫛

菴ハもく去何ぐぬ月代松屋か

鴻橋

茶乃く急男とまきく白ハハ

福井

山寺山龍啼くまぬる世

文彩

長きおねて丁ふたのかしり花

如梅

ふねの五月の稲はせ雲り

如弦

待桜を力と秋のしりり花

琵琶

祭よりあゝ動ぬ蠅や多勢の秋

眉月

枕より音かく集りまゝ花

翠車

車井小女の声おまりの海

叶雨

鳴る川縁ハ川邊の柳々南

嵐十

八月の天を雲りおめり

空草

月影は今ハ娘のまゝか

嵐薙

水うさぎの鈴をり秋の暮

梅旭

児達うさぎ老の響う籠

梅牛

森う起て舞入る揺さや扇の声

湖風

秋風や店よ吹流、候三ッ

馬時雨

御車乃跡り川にわ神のを

竹村

鷗ひりく帰ゆ中の中拈棒

美水

此らそのはゆふ森多葉中のを

翠山



柳 中 う 風 が 観 橋 の 小 舟 を 載

花久仙

山 原 を 穿 り 鹿 乃 星 を 飛

風絮

泉 音 を ち き 鐘 を 出 す 津 田 の 橋

世湖

さ ひ う う 海 を け の 舟 を 浮 す 舟

九江

戸 の 妻 を 紅 ち り や 柳 乃 新 清 免

群平

さ し ゆ い ふ し め 水 を 秋 の 月 に

春路

八 朔 を え の 梅 を 雪 に

野亭

我 名 ハ 遠 く 遠 く 遠 く 秋 の 美

歎玉

冬 梅の香もよぎる火消の香も

梅

冬

暎の香も左の香も右の香も

眉月

暎の香も清の香も

茶碗

暎の香も所百の香も

雪橋

暎の香も雨の香も

稲井

暎の香も氷の香も

文彩

暎の香も打の香も

如梅

赤印 如 永の木の香

香子

きり 榎らして居る大桶の南

湖亭

常目 乱れ 結 野

舞車

菊 松 福 長紙 水

叫和

日 雪 実 麦 村

兼十

松 花 香 小 水

野草

月 対 通 樹 の 香

扇雀

相 撲 取 向 合 多 巨 達 水

梅旭

小お撲と取一男お大坂川

梅牛

船お意気後一お大折箱

馬時雨

水多也白のし一法と

市村

花結ぬの、意地と法きし

笑水

四五のしお喜お幼瀬踏

翠山

茶酒ととあんとお如成風巻氷

花入仙

母おらん月と長けと相典川

風絮

近き也時雨と通寸僧お多り

市湖

ちまひを跡や入江此星月如

九江

初雪也傳又まきり雲の上

群平

夕月又声よ寸さよゆ

春路

とくし北の巻入想ぢり路か

曇華

不二のありかろかろらん小まが

湖風

危僧の膝の上よもはるる系る

歎玉

いさきも垣根と標の答ゆ

栖井

埋火より古の遠し雨農言

如弦

母

月

子

夜



清

母



